



©Wataru Yamamoto, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

山本 渉 Wataru Yamamoto 「欲望の形／ Desired Forms (2012-2017)」

会期：2018年11月22日(木) - 12月22日(土)

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿#206

営業時間：12:00-19:00 定休日：日、月、祝日

オープニングレセプション：11月22日(木) 18:00 - 20:00

トークイベント：12月8日(土) 17:00 - 18:00

※山本 渉×長谷川 新(インディペンデント・キュレーター)

2018年11月22日(木)より、Yumiko Chiba Associates viewing room shinjukuにて、山本渉個展「欲望の形／Desired Forms (2012-2017)」を開催いたします。今回は2012年に発表した「欲望の形」シリーズに連なる新作を発表いたします。

カール・ブロスフェルトの『芸術の原型』(1928年)に倣って撮影されたそのオブジェクトは、その細部の明晰さも相俟って、いわば「新即物主義的」に、ある事実を我々に伝えている。

事実。これらのオブジェクトは、ペニスではない。

撮影されたオブジェクトとは、男性用性玩具(オナホール)の内側(=ペニス挿入部分)を石膏で固めて取り出した立体物である。したがって一見するとそれはネガとしての人工ペニスである。がしかし、山本が撮影したそれらの写真は、見れば見るほどにおよそペニスらしからぬ異形さを湛えている。それはあたかも現代都市に自生する植物群のようであり、木下直之が「とろける股間」と形容した、修正され単なる盛り上がりとした野外の男性裸体彫刻の性器とはまた違う時間の研磨を受けている。人間工学とユーザーへの綿密な聴き取り調査に基づいて開発を続けていった結果、オナホールの空洞部分は、ペニスと一致するよりもむしろ離れていくこととなった。ペニスのリアリズムも、ヴァギナのリアリズムも、製作の条件-拘束具としてはもはや機能しない。石膏の輪郭線は快樂の最大化と技術的可能性によってのみ縁取られる。

新即物主義の作家たちは、同時代に流行していた観賞用の多肉植物を好んでモチーフとして取りあげているが、ここには、単に被写体の選択だけではなく、「新即物主義的」な撮影手法の選択においても、植物という自然を、無生物的、商品的、もっといえ機械的なものとして取り出しうるという可能性への確信が見てとれる。機械化と資本主義化が推し進められた彼らの時代においては、単なる自然主義は現実を掴みきれない。すべてが商品として欲望のもとに流通しうる現実を十全に過不足なく印画紙に定着させるための技術-芸術として、多肉植物は即物的に撮影されている。ブロスフェルト以上に、たとえばアンネ・ビエールマンの撮影したサボテンの方が山本の実践と重なり合うのは、そのためだ。

撮影されたこの奇妙な、しかし確実に実在するオブジェクトは、山本自身の経験が蝶番となって、東京・秋葉原という街へと結びつき、さらにサブカルチャー、インターネット空間へと連想されていく。そこには無論、2008年に起きた「通り魔事件」の残響が甞している。ここで我々は暫定的な結論を得る。これらの写真は、欲望に造形され特殊化していく社会の表象なのだ、と。しかし凍てついた視線によって貫かれたその写真は、再度我々に呼びかけている。

注意。これらのイメージは、社会そのものではない。



今回の新作として、作者はオナホルのパッケージイラストの女性をプロジェクターで投影したカラー写真を発表している。鮮やかな光を浴びる異形の物体には、そもそもにおいて異形である女性キャラクターの身体、そして肥大化した眼が貼りつき、こちらを向いている。ここで性をめぐるありようがねじれているのは確かであるが、その議論へと安易に舵を切るとはよそう。ここでの飛躍は思った以上に大きく深い。我々はまず、事実と注意から始めるほうがよいだろう。できるだけ入念に。それが何かわからなくなるくらいに。

長谷川 新(インディペンデント・キュレーター)

■作家ステートメント

「オナホール」と呼ばれる男性用性玩具の内側(空洞部分)を石膏で固め、取り出した立体物を撮影した写真群が「欲望の形」である。このシリーズは、人工的なヴァギナ(オナホールの穴)を反転し人工的なペニスとして撮影することによって欲する者の総体を捉えようとする試みであり、また多様なオナホールが生み出される生態系—オタクカルチャー、秋葉原という街、ネット空間とが複雑に絡む現象／空間—をガラパゴス化した自然林と捉え、そのキノコを採集せんとする私自身の欲望でもある。わざわざ撮影を行うのは、具体的なプロダクトを基にしつつ実体なき像を探求するためであり、カール・ブロスフェルトを範にしている。

今作は2012年に初めて発表した同シリーズの新作にあたり、主に2012年から2017年までの間に発売されたオナホールを対象にして制作している。2007年から秋葉原のアダルトショップでリサーチのためのアルバイトを始め、2008年の秋葉原通り魔事件を目の当たりにし、秋葉原の変容を観察してきた自分にとって2018年という年は節目にあたる。オナホールの穴から覗くこの10年間の停滞と進展のイメージを目の当たりにしてほしい。

2018年の新作個展には、2012年に発表したシリーズと同様の手法を用いたモノクロ等身大プリントと、オナホールのパッケージに描かれるキャラクターを光(プロジェクション)として石膏像に投影したカラープリントの作品を発表する。

山本 渉

■オープニングレセプション

日時：2018年11月22日(木) 18:00-20:00

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

■トークイベント

日時：2018年12月8日(土) 17:00-18:00

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

登壇者：山本 渉 × 長谷川 新 (インディペンデント・キュレーター)

※事前申込制、参加費：無料

【お申し込み方法】

件名「トークイベント参加」、本文に、参加人数、お名前、電話番号をご明記のうえ、event@ycassociates.co.jp までメールでお申し込みください。

*定員(20名)になり次第、受付を終了いたします。

*ギャラリーからの返信メールが届かない場合は、営業時間内にお問合せください。



■作家プロフィール

山本 渉 (やまもと わたる)

1986 栃木県生まれ
2011 キヤノン写真新世紀 2011 佳作
2013 多摩美術大学大学院 博士前期課程 修了

個展

2018 エイリアンズ、IG Photo Gallery (東京)
2016 しみ そめ しわ、Cale/Field Sewing Tokyo (東京)
夏の陽、Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku (東京)
しみ そめ しわ、Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku (東京)
2014 欲望の形 -器の濃き影-、NADiff Gallery (東京)
春 / 啓蟄、Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku (東京)
2013 プラタナスの観察、Yumiko Chiba Associates viewing room shinjukuku (東京)
2013 線を引く Drawing a Line, photographer's gallery (東京)
2012 山本渉 展、ギャラリーANOTHER FUNCTION (東京)

グループ展

2017 二人展 / ライラックとアンジェリカ、Cale/Field Sewing Tokyo (東京)
2017 T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO, 上野公園 (東京)
2016 Rituals -流体の景色-, アキバタマビ 21 (東京)
2015 New Japanese Photography, DOOMED GALLERY (ロンドン)
LUMIX MEETS / TOKYO 2020 BY JAPANESE PHOTOGRAPHERS #2, IMA CONCEPT STORE (東京)
2014 LUMIX MEETS / TOKYO 2020 By Japanese Photographers #2, Yellow Korner Paris Pompidou (パリ)
Unseen Photo Fair 2014 "Anima on Photo - Hidden sense of Japanese Photography", Westergasfabriek-Festival Ground (アムステルダム)
TOKYO2020, Christophe Guye Galerie (チューリッヒ)
2013 LIVING WITH PHOTOGRAPHY, 伊勢丹新宿店 (東京)
LIMIX MEETS / TOKYO 2020 BY JAPANESE PHOTOGRAPHERS 9
1 RUE RICHELIEU, HILLSIDE TERRACE / HILLSIDE FORUM (パリ、東京)
2012 3331 TRANS ARTS, 3331 Arts Chiyoda (東京)
2011 キヤノン写真新世紀 2011、東京都写真美術館 (東京)
2010 126 POLAROID さよならからの出会い、横浜美術館アートギャラリー (横浜)

コレクション

アマナコレクション

■登壇者プロフィール

長谷川 新 (インディペンデント・キュレーター)

1988 年生まれ。インディペンデント・キュレーター。主な企画に「無人島にてー「80年代」の彫刻／立体／インスタレーション」(2014年)、「パレ・ド・キョート／現実のたてる音」(2015年)、「クロニクル、クロニクル！」(2016-2017年)、「不純物と免疫」(2017-2018年)など。PARADISE AIR 2017-2018 年度ゲストキュレーター。日本写真芸術専門学校講師。日本建築学会書評委員。

【本展に関するお問合せ】ぜひ貴社にて御紹介くださいますようお願い申し上げます。画像データの御依頼等は下記までご連絡下さい。

ユミコチバアソシエイツ

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿#205 [Tel] 03-6276-6731 [e-mail] info@ycassociates.co.jp

[website] www.ycassociates.co.jp [営業時間] 12:00-19:00 [定休日] 日・月・祝日